

1 ACNフォーラム開催のアンケートのお礼

この度はACNフォーラム開催に当たり、ACNレポート読者の皆様にアンケート調査をご依頼したところ種々のご意見をいただき、ありがとうございました。フォーラム事務局といたしましては皆様方のご意見を参考にして本年8月25日福岡市で開催する第14回ACNフォーラムが実り多きものとなるように努力いたしますのでご参加のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

2 ACNフォーラム開催のアンケートについて

アンケートの主旨

第14回ACNフォーラムの開催に際し、テーマ 講師及び運営方法等について参加者の意見を参考にするため

アンケート実施日時

平成23年1月29日～平成23年2月28日

アンケートの方法

ACNレポートに同封して配布、回収は事務局宛のFAXにて

3 アンケート調査結果

どのようなテーマにご興味がありますか。

(複数回答可)

	回答数
種苗動向	8
生物餌料(ワムシ・アルテミア・コペポダ等)	4
養殖動向	4
魚病について	5
新魚種	8
産学官の取り組み	3
水産(養殖魚など)流通	4
海外の養殖事情(中国、韓国、欧米)	7
輸入魚の状況	4
その他	0
合計	47

上記の質問に付きまして具体的な内容を教えてください。

新しい養殖魚 対象魚の魅力 課題

どうすれば養殖魚が高く売れるのか(流通の実態・ブランド化の可能性・消費地側の意向etc)

今後伸長する魚種と課題

魚病については現在のワクチン開発の現状など

国内外に関わらず、付加価値の高く有望な魚種もしくは水産生物について

中国 韓国の養殖現状とその動向による日本への影響

弊社は珪藻等の餌料や2枚貝の種苗生産を行っており、これに関わる分野について市場から知りたい

中国におけるトラフグの養殖状況(数量)、消費動向

トラフグの寄生虫症、ヒラメの滑走細菌症の現在の状況

ウナギの種苗生産の技術進歩

講師についてご意見を教えてください。

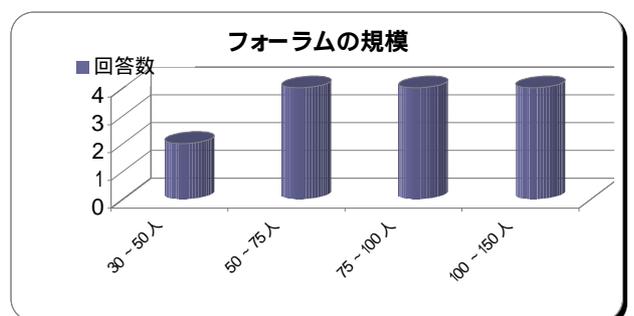
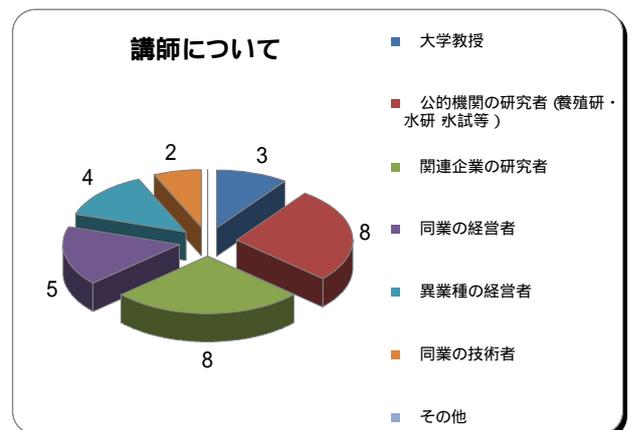
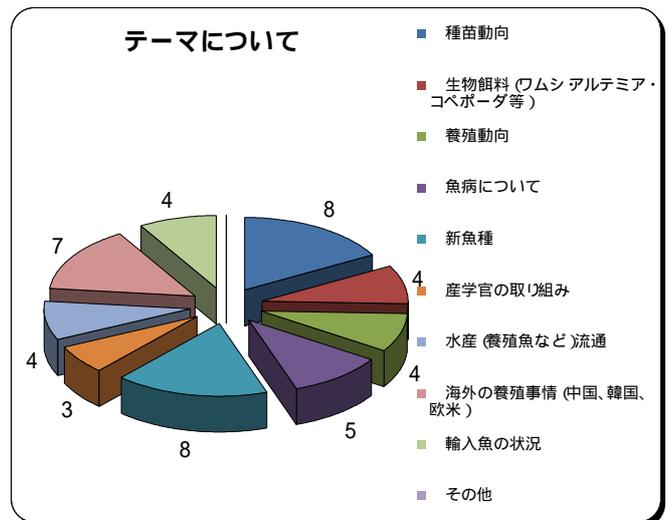
(複数回答可)

	回答数
大学教授	3
公的機関の研究者(養殖研・水研・水試等)	8
関連企業の研究者	8
同業の経営者	5
異業種の経営者	4
同業の技術者	2
その他	0
合計	30

フォーラムの規模は何人ぐらいが適当だと思いますか？

(複数回答可)

	回答数
30～50人	2
50～75人	4
75～100人	4
100～150人	4
合計	14



.フォーラムの方式についてご希望を教えてください。
(複数回答可)

	回答数
養殖業者 種苗業者 関連業者 全員同室、 同テーマで懇話する	5
養殖業者+関連業者と種苗業者+関連業者の 2グループに分かれ懇話する	4
2グループ別々の後で一緒に	3
その他	0
合計	12

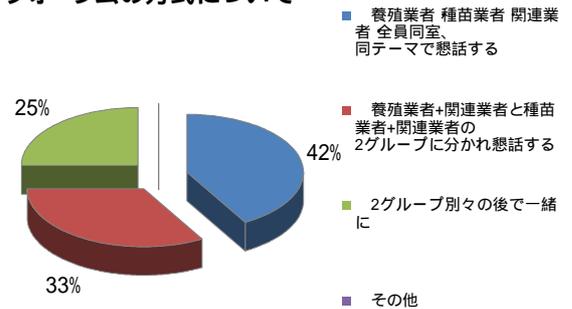
.フォーラムの時期はいつ頃がいいですか？
(複数回答可)

	回答数
1～2月	1
3～4月	
5～6月	
7月前半	
7月後半	1
8月前半	
8月後半	5
9月前半	3
9月後半	3
10月前半	
10月後半	
11月	
合計	13

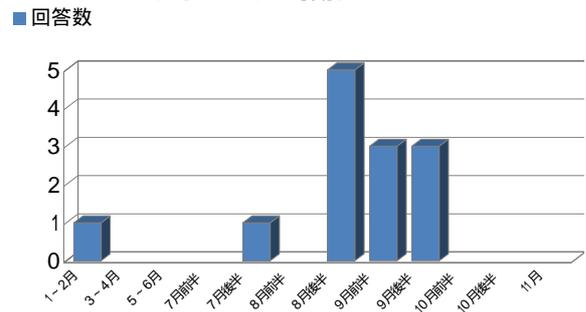
.その他ご意見等お聞かせください

じゃんけんゲームの敗者復活は不愉快であった

フォーラムの方式について



フォーラムの時期について



4 アンケート調査結果について

アンケート用紙 (A-4 1枚) を平成23年1月30日発行のACNレポート4号に同封して210部発送し、2月28日までに14通の回答が事務局にFAXされました。講演のテーマについての回答が最も多く、その中で 種苗動向、新魚種、海外の養殖事情の順となっています。講演テーマとは同じ範疇としますのでACNレポートの読者 (水産増養殖関係者) の将来の中核となる養殖魚種への期待の大きさを改めて感じました。講師の候補については増養殖関連研究者の要望が多く、公的研究機関及び民間企業が同数でした。しかし、講演テーマの要望として「海外の養殖事情」が第3位であると考えますと、アンケート用紙の講師候補として「海外の研究者や経営者」を選択肢に加えべきであったと思っています。フォーラムの規模や方式については意見がほぼ同率で分散していますので、当面は従来通りでいいのではないかと考えています。開催時期については本年は既に決定事項ですが、回答でも8月後半が多かったので安心してはいます。回答者の皆様のご配慮に感謝いたします。

以上